

日刊 労働千葉

国鉄千葉労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(労働車会館)

電話{(鉄電) 千葉 2935・2936番

(公) 043(222)7207番

* 電話番号は4月29日から変更になります

92.4.20 No.3577

4.29

PKO法案を廃案へ！首都圏統一行動

4.29 反戦共同行動統一行動へ

「平和のため」から始まる侵略戦争

しかし、この「国際貢献」という美しく飾られた仮面の下には、アジアへの再侵略という猛毒が隠されているのだ。

戦争はいつも「平和のため」という旗を掲げて始められることが多い。肝に銘じ、PKO法案＝自衛隊海外派兵を絶対に許さない闘いに立ち上りがろう。

四・二九反戦共同行動委員会第一波首都圏統一行動に結集しよう。

本年初頭から「共和」「佐川」疑惑をめぐる金権腐敗政治の追及にその基盤が揺さぶられた宮沢内閣は、「今通常国会での成立」を事あるごとに吹聴しまわっている。特に、タイ国境のカンボジア難民三七万人のカンボジア帰還が三月末に始まり、インドネシア、タイなどの部隊がカンボジアに到着したことで、いよいよ尻に火のついた宮沢内閣は、何としてもカンボジアへの自衛隊派遣を行なおうと、PKFの凍結、PKO法案の一部修正、事前の国会承認など、自公民体制の修復を基軸にして、「国際貢献」を振りかざしてあくまでPKO法案成立を狙つている。

連合は、この間PKO法案反対の社会党議員に対し選挙不協力の脅しをかけPKO推進の民社党議員を連合候補とするなど百パーメント現代版「産業報国会」としての正体をさらけだしてきている。連合山岸会長は、三月十五日テレビ朝日でのインタビューで、「外交・防衛問題に関する政治方針について」次ぎのように語つている。

自衛隊は、専守防衛と文民統制を前提として認める。

として、「私は、条件つき合憲論者。原則論者ではない。」として自衛隊の合憲にまで踏み込むことを示唆。

「PKO廃案はだめ。日本が国際貢献に真面目でないと思われる。「日米安保条約については認める」

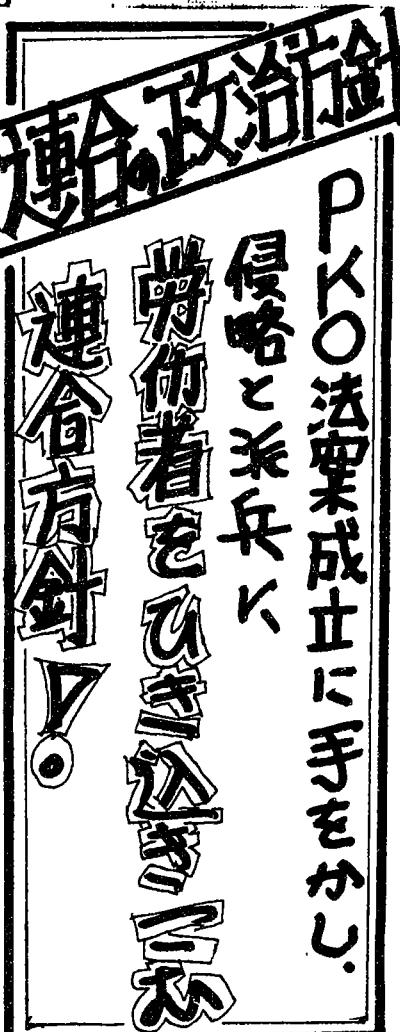


地の民衆が憎しみをこめて敵視し、対ゲリラ工作をはじめ、あらゆる「工作」に手を染めているのが実態である。それを政府だけでなく、連合が民間人や連合組合員を動員し行うというのである。

【連合の「犯罪性」と「破綻」】
連合は、政府・支配階級の攻撃に対する労働者（組合）の動きを

産業報国会

戦前、1937年7月7日、日本帝国主義による中国全土への侵略の全面拡大に際し全日本労働総同盟幹部は「スト絶滅宣言」を発し、そのあと産業報国会を結成、労働組合の解散へとなだれ込み、労働者総体を戦争へと引き込んでいった。



おさえこみ、一掃し、日本の労働者階級を丸ごと戦争と反動の流れの中にひきずり込もうとしているところに最大の犯罪性がある。その意味では、JR総連革マルと「同一」である。

だが、彼らは決して「順調」ではない。否、むしろピンチですらあるのだ。

「事業団闘争」、勤労千葉のたたかいをはじめ新たな労働運動の創造の力が、山岸が吹聴した「一千万人結集」を吹きとばし公表七百七十四万人と約二十四万人減となりを見てとることができる。

「交流」センターの強化・拡大、反戦・侵略阻止の大きなうねりをつくり出し、もって連合を更に追込もう。

4.29
集合
— 東京・日本青年館 — 11時～13時
反戦・統一行動へ！

一月最後部

後部